

## 再生医療の臨床試験計画における患者と研究者の コミュニケーション——骨髄間質細胞移植をめぐる

2014年1月15日（水） 17:00-19:00

2003年から2005年にかけて、脊髄損傷の患者会である「日本せきずい基金」は急性期脊髄損傷者を対象とした臨床試験計画に関与しました。その結果、臨床試験の研究デザインを変更させ、インフォームド・コンセントに際しての説明文書にも影響を与えました。なぜこのようなことができたのでしょうか？この事例を科学コミュニケーションやローカルノレッジである患者の知に注目して読み解いていきたいと思います。（ゲストより）

### ゲスト 坂井めぐみ 氏

立命館大学大学院 先端総合学術研究科 生命領域3回生（D1）

当事者団体（患者会）と再生医療研究の歴史の交差に注目し、科学研究と市民の相互作用という観点から日本の再生医療研究を現代史的に調べています。専門は科学史、STS。

### 会場 京都大学 iCeMS 本館 2階

（京都市バス「京大正門前」下車すぐ。「東山東一条」交差点 北西角。）

\*17時以降は建物の鍵が閉まるので、外からは入れません。

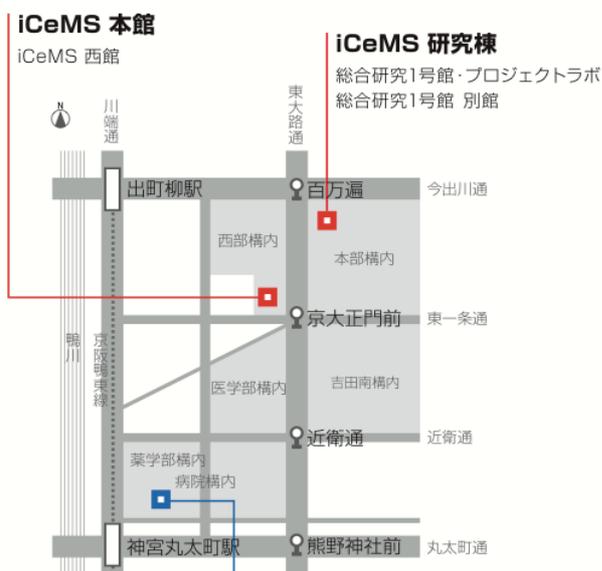
\*お申し込みの方には、前日までにこちらの電話番号をお伝えします。

\*到着が17時よりも遅くなる方が予想される方は、事前にご連絡下さい。

### 定員 25名程度

\*当日参加も可能です！

\*お申し込みをいただいた方には、リマインダーを送ります。



持ち物 （おなががすく時間なので）夕ご飯を持参ください。

主催 科学コミュニケーション研究会 関西支部有志（工藤、秋谷、加納、水町）

お申し込みはコチラから → <http://bit.ly/19UhfoK>